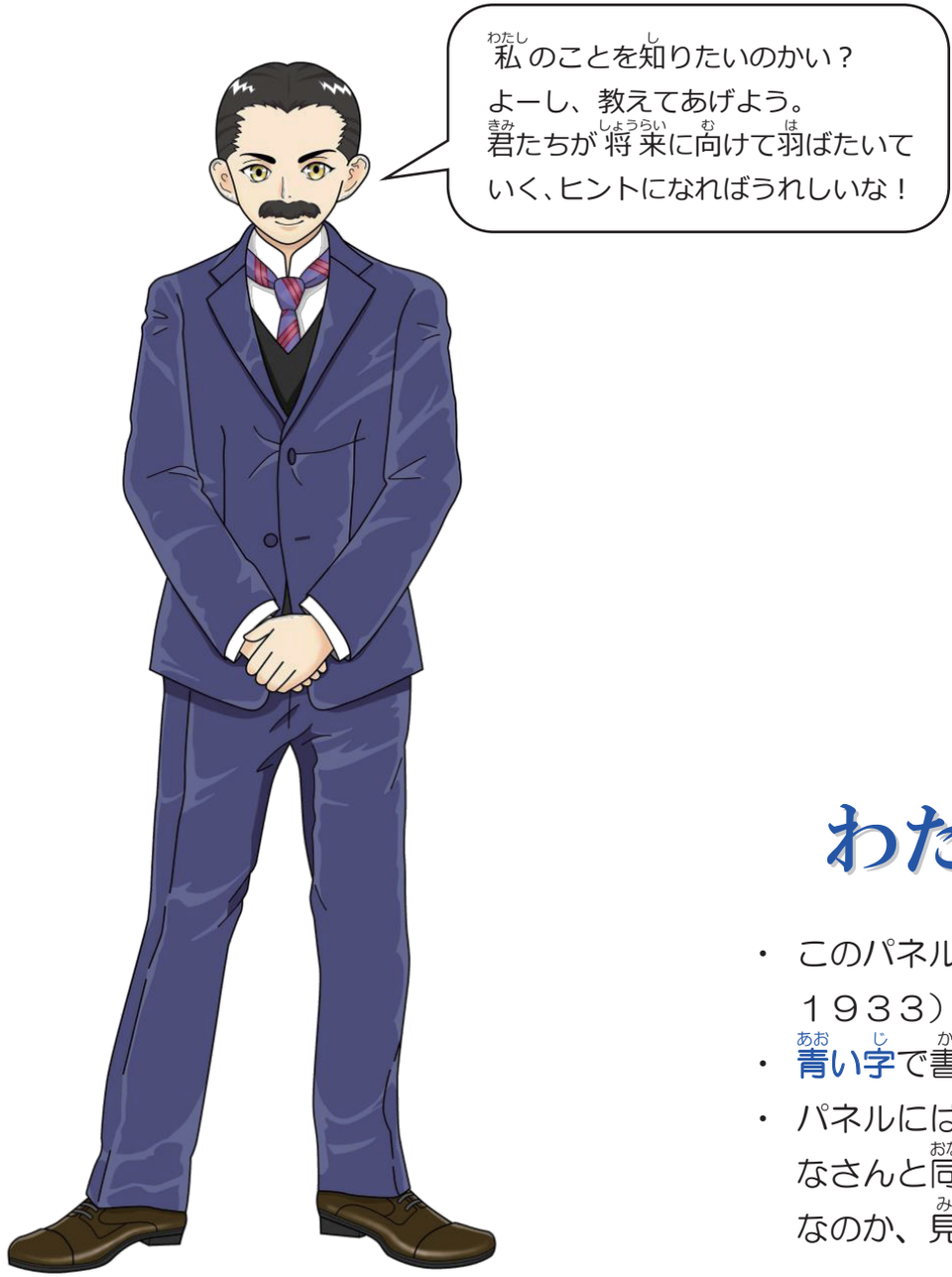


吉野作造記念館

わたしたちの先輩・吉野作造

- このパネル展示は、ここ大崎市古川出身の政治学者・吉野作造（１８７８～１９３３）が生まれてから亡くなるまでのできごとを紹介しています。
- 青い字で書かれているのは、パネルの中でも特にたいせつなことです。
- パネルには、そのころ吉野作造が何歳だったかが書いてあります。作造がみなさんと同じ年のころは何をしていたか、大きな仕事をしたのは何歳のころなのか、見てみましょう。

2023 年 3 月改訂

吉野作造、古川に生まれる（０～６歳）

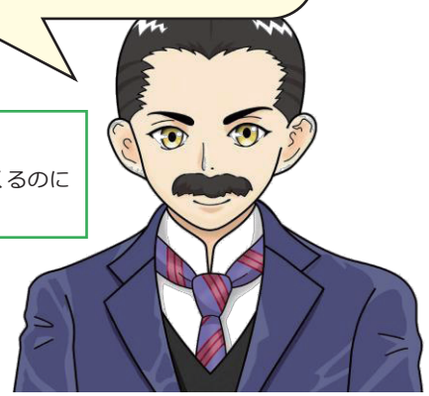
吉野作造は１８７８年（明治１１年）１月２９日、いまの大崎市古川十日町で生まれました。

作造が生まれた吉野家は、**糸や綿、反物**を売っている商人の家で、作造が小さいころは、古川ではまだめずらしかった**新聞や雑誌**も売っていました。

作造の生まれた家は、残念ながら１９０８年（明治４１年）の古川の大火事で焼けてしまいました。家のあった場所は現在、**吉野ポケットパーク**という黄色いポストが目印の小さな公園になっています。

作造の生まれた家があったところ
（吉野ポケットパーク）

私は 12 人兄弟の 3 番目に生まれた。
厳しくもやさしい父さんと母さん、
それにたくさんの兄弟にかこまれて
にぎやかな家だったよ。
たまに古川に来るお芝居を観るのが
楽しみだったな。



反物
着物（和服）をつくるのにつかう布のこと。

これからの時代は、
新聞や雑誌を読んで
ちゃんと世の中の動きを
知らないといかんな。

学問はだいじですよ。
たくさん勉強なさい。
成績がわるかったら
おこづかいはナシですよ！

作造の母・こう

作造の父・年蔵
古川町長にもなりました。

明治時代末ごろの十日町のあたり

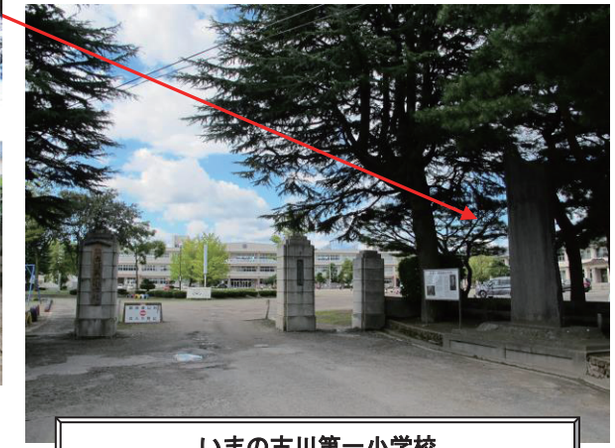
吉野作造の小学校時代（６～１４歳）

作造は、１８８４年（明治１７年）に古川小学校に入学しました。いまの大崎市立古川第一小学校です。古川小学校は１８７３年（明治６年）にでき、作造が卒業する前の年の１８９１年（明治２４年）、古川町立古川尋常高等小学校という名前になりました。作造が通ったころは免許をもった先生はまだ少なく、町の人たちが仕事のかたわら教えていました。

作造も小学校３年から４年ころまで学校で習ったのは読書、習字、作文、そろばんくらいでしたが、教育熱心なお父さんとお母さんのもと、作造は一生けんめい勉強しました。特に字は毎日３０分の練習で大変上達しました。また作文を雑誌に送ったりするようになりました。

細川松三郎先生と一小前の頌徳碑

細川松三郎先生は 1891 年（明治 24 年）から 25 年間古川小学校で教え、1899 年（明治 32 年）からは校長をつとめました。この石碑は細川先生が亡くなった後、作造たち教え子一同が感謝をこめて建てたものです。



いまの古川第一小学校

下の写真とくらべてみましょう。
どちらも校舎前に大イチョウが見えます。

小学校の同級生・清野金太郎と（1900 年頃）

明治時代末ごろの古川小学校

江戸時代までは「古川城」というお城でした。そのため、作造が通っていたころはお堀や土塁（お堀にそって土を高く盛り上げ、敵にそなえたもの）が残っていました。

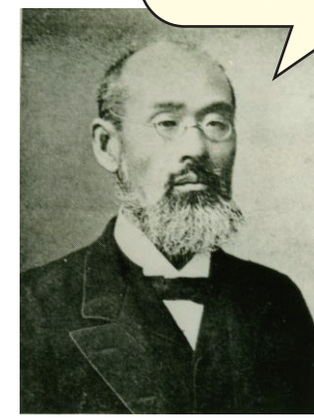
吉野作造の青春時代（１４～１９歳）

作造は、１８９２年（明治２５年）に小学校を卒業し、仙台にある宮城県尋常中学校（いまの宮城県仙台第一高等学校）に入学しました。同級生の三浦吉兵衛もいっしょでした。古川から中学校に進んだのは作造たちが初めてで、小学校の全生徒が、旅立つ作造たちを街はずれまで見送りました。作造はお父さんお母さんの元をはなれ、仙台で暮らすことになりました。

作造は仙台の学校で一生けんめい勉強しながら、小山東助（気仙沼出身、１８７９～１９１９）など学校の仲間たちといっしょに**雑誌づくり**に熱中するようになりました。運動はあまり得意ではなかった作造でしたが、テニスやスケート、野球など、スポーツにもチャレンジしました。また、体をきたえるため、毎朝の乾布まさつや、鉄アレイを使った筋トレに取り組んだ時期もあったようです。

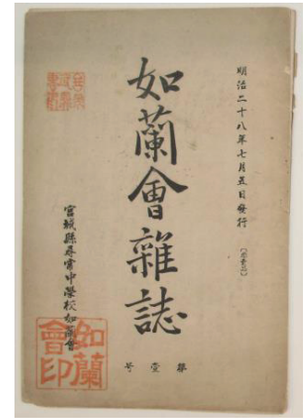
剛健旅行の３人（１８９５年夏）

中学３年の夏、この３人で古川から岩手県、秋田県へと、２週間かけて旅行したんだ。歩いて！

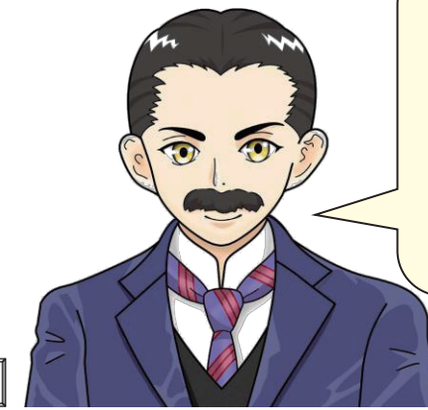


大槻文彦（１８４７～１９２８）
宮城県尋常中学校の校長だった大槻文彦先生は、日本最初の国語辞典『言海』をつくった国語学者でもありました。

私もなかなかできる方だと思うが、吉野くんの優秀さにはおどろいたね。
「わが大槻家を継いでくれないか？」とたのんでみたが、断られたよ、ハハハ。



作造が友人たちとつくった校内雑誌

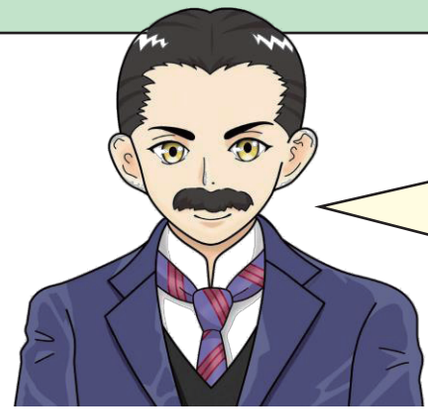


またなつかしいものを…。
これは私が中学時代、仲間といっしょにつくった『如蘭会雑誌』という雑誌だよ。
私は歴史が好きだったから、日本の歴史の話を書いたり、あとは短歌もよんだね。

キリスト教と学問（１９～２６歳）

１８９７年（明治３０年）に、仙台の旧制第二高等学校（いまの東北大学）に進んだ作造は、アメリカ人のアンネ・Ｓ・ブゼル先生が開いていた聖書の勉強会に通い、やさしさと熱意にあふれたブゼル先生の影響で、キリスト教徒になることを決意しました。**ブゼル先生に教わった、人のために尽くす心、そして勉強会のなかまたちとの友情**は、作造の一生の財産になりました。

上京し、東京帝国大学（いまの東京大学）に進学した作造は、**政治学（どのように国を治めるかを研究する学問）**を学ぶようになりました。キリスト教、そして政治学。この２つが、作造の一生のテーマとなるのです。



ブゼル先生は、尚絅女学校という女子校の校長先生だったんだ。
私のほかにも、第二高校の生徒がたくさん来たよ。英語の勉強にもなったからね。
ブゼル先生がつくってくれるアイスクリームが楽しみだったな。
あ、実は私が結婚したのもこの頃なんだ。
学生結婚！

バイブル・クラスの仲間たち
作造といっしょにブゼル先生のもとで学んだ内ヶ崎作三郎（1877～1947）は、いまの富谷市出身で、のちに国会議員になりました。

旧制
むかしのしくみやきまり、法律のこと。「旧制高等学校」は、むかしのきまりによってつくられた高等学校のことで、いまの高等学校とはちがうものです。

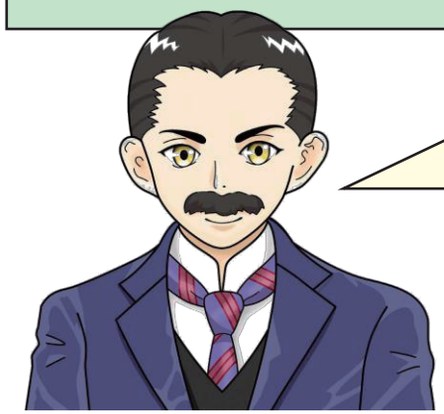
世界をこの眼で（２８～３５歳）

１９０４年（明治３７年）に東京帝国大学を卒業した作造に、中国で働いてみないかというお話がありました。作造の仕事は、当時中国を支配していた清王朝の実力者・袁世凱（１８５９～１９１６）の息子の家庭教師でした。

３年間の中国生活を終えて日本に帰った作造は、１９１０年（明治４３年）から３年間、今度はドイツなどヨーロッパの国々へ留学しました。

ヨーロッパで作造の心に強く残ったのは、**自分たちのことは自分たちで決めようと、みんなが声をあげ、その声が政治を動かしている**様子でした。

日本もこのようにしていかなければいけない―そんな思いを作造は強くしていきました。



じつは右のハガキ、絵じゃないんだ。
ドイツ語をレッスンしてくれた先生が、私の写真の上から絵の具をぬったんだよ（笑）。
留学ではいろんな人と知り会えたし、ヨーロッパの**デモクラシー**を実際に見ることもできた。
みんなもいつか外国に行ってみよう！
たくさんの出会いと発見があるはずだよ。

ドイツから送った娘たちへのハガキ

中国の服を着た吉野作造

大崎市文化財

ヨーロッパ土産のコーヒーカップ

民本主義を発表（３８歳）

１９１４年（大正３年）、作造は東京帝国大学の教授になりました。作造は、日本でも**国民の意思にもとづいた民主主義（デモクラシー）の政治**をしていかなければならないと考えていました。しかし当時の日本は、選挙は不平等で、民主主義とはまだほど遠いものでした。

そんな中、作造は論文で「**民本主義**」という考えを発表し、**日本もこれからは平等な選挙で代表を選び、話しあいながら国の政治をしなければならない**と説きました。作造の主張は日本じゅうに広く受け入れられ、作造は、**大正デモクラシー**とよばれる自由な時代の代表になりました。

１９１８年（大正７年）には、作造は仲間の学者たちといっしょに「**黎明会**」という会をつくり、日本全国を飛び回って講演し、**みんなにデモクラシーの大切さをひろめようと努力**しました。また、雑誌や新聞に、政治や社会に関する記事をたくさん書きました。

憲政の本義を説いて
其有終の美を済すの途を論ず

法學博士　吉野作造

去年十二月一日より東京に開かれたる念岡中學校長會議に於て、高田新文相が特に訓示を與へて立憲思想養成の急務を說きたる事と、水戸中學校長菊池謙二郎氏が起つて大隈閣の居据りと立憲思想との關係の說明を求めて文相に肉薄したる事とは、著しく世間の耳目を惹いた。訓示の一節に曰く。

（上略）中等教育ニハ種々ノ方針アルベキモ、余ノ信ズル所ニ從ヘバ、立憲思想ノ養成ヲ期スル急務アリト信ズ。（以下略）

「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」
『中央公論』1916 年（大正 5 年）1 月
作造が「民本主義」を発表した論文です。

選挙
いちばんよいとおもう人の名前を、ひとりずつ紙に書いて箱に入れ、みんなの代表をえらぶこと。

講演
おおくの人のまえでお話をすること。

世界には、代々の国王がいる国もいれば、国民に選挙で選ばれた大統領がいる国もある。日本では代々の天皇がいるね。
でもどんな国でも、**政治とは国民みんなのためにするものなんだから、国民みんなの意見をふまえて政治をしなきゃいけない。**
それを私は「**民本主義**」と呼んだんだ。

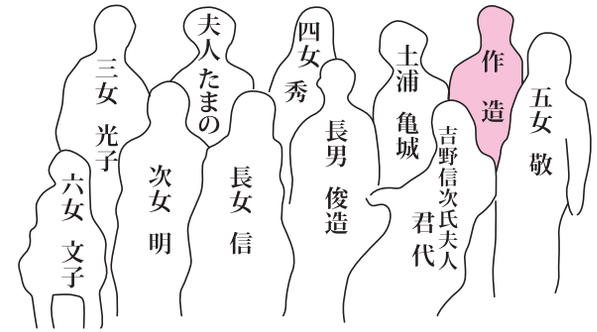
たとえばクラスの代表を多数決でえらぶときに、自分だけ仲間はずれにされたらイヤだね。国の政治も同じ。**みんなに関わるだいじなことは、みんなで責任をもって決めるべきなんだ。**

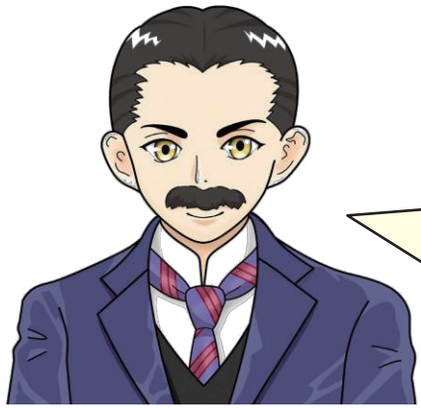
吉野作造の家族

作造は、男の子５人、女の子７人の１２人兄弟の長男として生まれました。むかしの商家は、たいてい長男が跡継ぎになるものでしたが、古川では、長女がおむこさんをもらって跡継ぎになることが多かったようです。作造が進学できたのには、そうした事情もありました。

作造は旧制第二高等学校時代の１９００年（明治３３年）に、小学校の先生をしていた阿部たまのと結婚します。その後女の子６人、男の子１人にめぐまれました。

作造と兄弟たち（1890 年代か）
弟の吉野信次（1888～1971）は、のちに官僚、大臣になりました。





上の子どもたちが小さいころ、私は中国やヨーロッパに行っていたものだから、ほとんど顔も見せてやれずにかわいそうなことをしたなあ。
まあ、**長女は建築家、次女は私と同じように文筆活動**をしたりと、ずいぶんたくましく育ってくれたけどね。子どもたちが何になりたいと言っても、特に反対はしなかったな。
私も大学教授になってからは、家族の時間を大切にするようにしたよ。夏休みの家族旅行とかね。

作造と子どもたち（1920 年代）

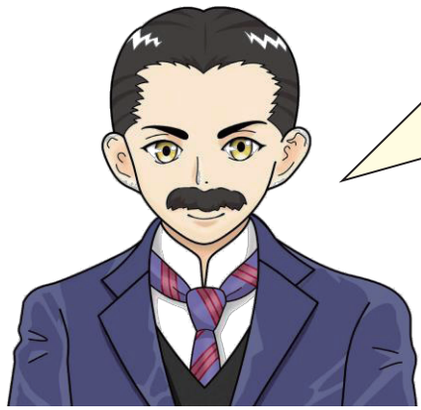
国境を越えるデモクラシーの絆（３６歳～）

作造は、新しい国をつくろうとしていた中国の人びと、日本から独立して自分たちの国をつくろうとしていた朝鮮の人びとなどと交流し、彼らを応援しました。

国や立場が違っていても、おたがいを理解しあおうと努力することが大切だと、作造は考えていたのです。

大崎市文化財

孫文が作造に送った書「天下為公（天下を公となす）」
政治は一部の人のためではなく、すべての人のために行われなければならない、という意味です。



どんな国の人でも、よその国に支配されるのではなく自分たちの国を持ちたい、自分たちのことは自分たちで決めたいと願うのは、当然のことだと私は思う。日本の人も外国の人も根っこは同じなんじゃないかな。
たとえ今はケンカしていても、いつかきっと分かり合えるはずだ。
私がこう思えるのも、高校時代のブゼル先生や、外国での多くの出会いがあったからかな。

孫文（１８６６～１９２５）
清王朝をたおし、新しい政府をつくったことから、中国では「革命の父」と呼ばれて尊敬をあつめています。しかし、その後争いに敗れ、多くの仲間たちとともに日本へ逃れていました。

未来に希望を託して（５５歳）

１９２３年（大正１２年）に関東大震災が起きてからは、作造にとってつらいことも多い日々でした。大学や新聞社での仕事を失ったり、無理がたたって体をこわしたりもしました。しかし作造は、最後まで前向きに本や雑誌の仕事を続けました。

１９３３年（昭和８年）、作造は５５歳で病気のためこの世を去りました。その後、日本は中国やアメリカとの長い戦争の時代に入り、１９４５年（昭和２０年）、日本は戦争に負けました。しかしその後、**大正デモクラシーの時代を生き、作造の影響を受けた若者たちが中心となって、民主主義の国である今の日本をつくったのです。**

作造のもっとも大きな功績は、こうした若者たちを育てたことでしょう。

常により良い日本社会をめざし生涯をかけぬけた吉野作造―これからの社会は、作造の後輩であるわたしたちひとりひとりの力にかかっています。

関東大震災

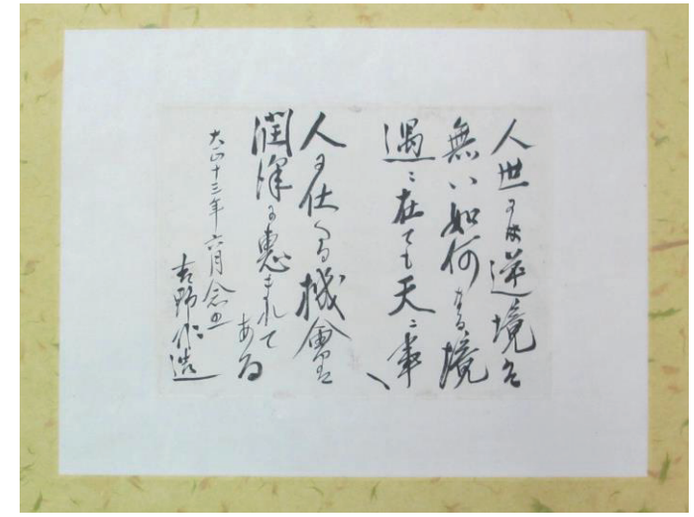
1923年９月１日におきた大きな地震。東京や横浜で10万人以上の人たちがなくなった。

人世に逆境は無い
如何なる境遇に在ても
天に事へ、人に仕へる機会は
潤沢に恵まれてある

大正十三年六月念五

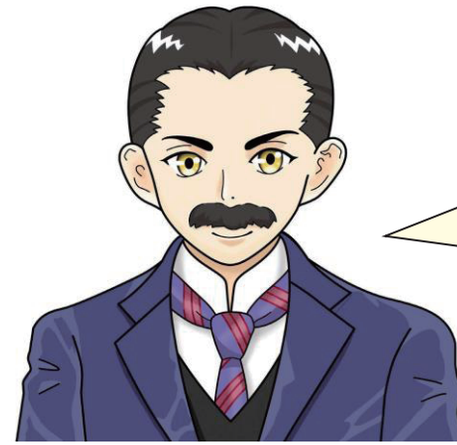
吉野作造

大崎市文化財



作造の書「人世に逆境は無い」

つらく、思うようにいかない時でも、世のため、人のために役に立つ道はたくさんある、という意味です。



政治も生活も、大切なことは同じだ。
自分たちのことは自分たちで決め、ひとりひとり責任をもってやること。
そして**他の人に思いやりをもつ**こと。
君たちなら、けっしてむずかしくないはずだ。
君たちの未来に栄光あれ！